

「和歌山 ASEAN プロジェクト(WAP)」 インドネシア教育支援プロジェクト(Cube)による

「第 2 回インドネシア バンタル・グバン地区学校支援活動報告 (2014 年 3 月)」

◇愛媛大学・プルサダ大学との 3 大学合同支援活動の結果

昨年 9 月、バンダलगバンにある寄付により設立された教育施設「アル・ファラー学校」を訪れ、教育・居住環境を調査した。この学校はジャカルタの廃棄物が集まるゴミ処理場に隣接していて、住人はゴミ回収で生計を立てている。しかし、その住人の多くが戸籍をもっていない。帰国後、子どもたちや地域住民と交流したメンバーが今自分たちにできる支援について協議を行った。「彼らの夢の選択肢が広がるアクションを起こしたい」という思いから、今年の 3 月は教育・健康・保健に対する意識の向上を図る活動を行うことに決めた。保護者と子ども、教師の三者全体にアプローチすることで学校全体の教育方法の選択肢を拡大するとして、6 つの企画(アイスブレーキング、実験 (ロケット)、食育、衛生、菜園調査、夢トーク)を実施した。尚、今回の事業は和歌山大学と愛媛大学の国際協力サークル“愛大グローバルコミュニティー(愛グロ)”とインドネシアの“ダルマ・プルサダ大学(プルサダ大学)”日本語学科学生の 3 大学合同事業である。3 大学共通の“学校に関わる者の夢が広がる”という理念をかかげて活動を行うことに決定し、今回の合同活動が実施された。

◇アル・ファラーでの支援活動

3 月 14 日、プルサダ大学にて日本語学科学生たちと顔合わせを兼ねて、バンダलगバンでの活動企画の打ち合わせを行った。翌日 15 日～16 日にかけてインドネシアプログラムに参加した和歌山大学 1 回生～3 回生の計 15 人と藤山一郎特任准教授、愛媛大学からの参加メンバー 4 名、プルサダ大学日本語学科の学生 12 名の計 32 名がアル・ファラーを訪れた。

2 日間のタイムスケジュール(愛):愛媛大学側の企画、(和):和歌山大学側の企画)

	15 日	16 日
午前(10:00～12:00)	(愛)アイスブレーキング	(愛)衛生企画/(和)食育企画
午後(13:00～15:00)	(和)実験企画(ロケット) ※集団下校・家庭訪問	(愛)夢企画/(和)菜園調査企画

<実験企画 (ロケット) >

企画対象者は教師と子どもである。教師には日本の教育現場で実施されているグループワーク・実験・実習といった授業方法を紹介すること、また今後普通の授業でそれを実施していただくことを目的として行った。子どもたちにはグループワークを通して協調性を身に付け、実験・実習を通して創意工夫をしてもらうことを目的として行った。ペットボトルロケットをグループごとに作成し、2 回飛ばした。飛距離を競い、優勝グループには賞品を用意した。子どもたち、教師ともに好評であった。



写真 1: ロケット作成



写真 2: ロケット発射

<食育企画>

企画対象者は家庭で最も"食"と関わる子どもの母親である。「学校に関わる人々の夢の選択肢が増える」ことを達成するためには、バランス良く栄養を摂取し健康に過ごすことも一つの大きな要素だろう。人々の生活に欠かせない"食"という面からアプローチする企画である。内容は母親が関心を抱くよう<美>に焦点を置いたものとした。女性ならばみな<美>に関心が高いと考えたためである。"美食セミナー"と題し、パワーポイントによるレクチャー・クイズ・試食を行った。母親がどれほどこの企画に関心があるのか不安だったが、想像以上に盛況で手ごたえがあった。



写真3：パワーポイントによるレクチャー



写真4：母親たちの様子

<菜園調査企画>

今回の企画対象者は教師である。本来は子どもも対象とし、自ら何かを育てることにより達成感や学びを得ることを目的としている。だが、実際にバンドルグバンで菜園が可能なのか不確かだった。そのため今回は実現可能か調査する目的で教師のみを対象とした。ひまわりと空芯菜を1種類ずつプランターに植え、育て方のレクチャーをした。定期的に現地の様子を写真で確認し、今後持続可能性があると判断した。次回渡航では子どもも対象とし、企画を本格的に実行する予定である。



写真5：プランターに種を植える作業



写真6：教師の様子

◇活動を振り返って

今回の活動を通して子ども、教師や保護者のニーズを把握することができたことが今後につながる成果である。今回の得た成果を活かし、より現地のニーズに合った活動をおこなうべく今年の渡航に向けて協議を行うこととなった。次回は更に質の高い企画を行い、子どもたちや先生、親たちとより多くのコミュニケーションをとる必要があるだろう。